

江南市まちづくり会議（分野別会議） 議事要旨

会議名	平成 25 年度第 2 回 第 1 分科会（生活環境、産業分野）
日時	平成 25 年 10 月 16 日（水） 午前 9 時 30 分～正午
場所	江南市役所 2 階 大会議室
出席者	市民委員 後藤 俊夫、藤田 泰雄、宮川 秀男、安藤 哲子、岩井 喜美子、松本 千賀子
	市職員 片野 富男、小塚 昌宏、大岩 直文、米田 隆彦、阿部 一郎、古田 勝己、 加藤 靖之
議題	1. 前回の議事要旨について 2. まちづくり評価及び戦略計画の見直しについて
資料	第 1 回まちづくり会議 議事要旨

◆ 会議結果 ◆

1. 前回の議事要旨について

- ・事務局より前回の議事要旨について説明がありました。
- ・前回の会議で質問のあった「地域安全パトロール実施率」について、全地区 68 のうち、62 地区でパトロール隊が結成されているとの説明がありました。

2. まちづくり評価及び戦略計画の見直しについて

〔柱 2〕 消防・救急体制の充実

〔まちづくり評価関係〕

〔個別目標①〕 消防・救急体制が充実している

- ・消防団員の充足率及び団員の募集方法について質問があり、消防団員の条例定数 183 名に対し充足率は 100%であるとの説明がありました。また、具体的な募集方法については、広報への掲載や事業所をまわってお願いをしたり、市役所の職員へもお願いをしているとの説明がありました。
- ・少子高齢化の進展とともに、若い人は市外へ流出し、女性は社会進出していくようになると、地域の空洞化がますます進み、今後も消防団員の充足率 100%を維持していくのは難しいのではないかとの意見がありました。なお、消防団員の年齢構成については、平均年齢 38.1 歳で、21 歳から 67 歳まで幅広い世代の人が所属しているとの説明がありました。
- ・消防団員だけでなく、ボランティアコーディネーター、ごみの分別指導員、地域安全パトロール隊などについても高齢化の問題を抱えているとの意見がありました。

〔柱 3〕 快適で便利な日常生活の確保

- ・資料 5・6 に基づき、委員（市民サービス課長）より説明がありました。

〔まちづくり評価関係〕

〔個別目標①〕 専門家による相談を受け安心して暮らしている

- ・消費生活講座等を開催しても悪質商法が依然としてなくなる現状もあり、繰り返し啓発をしていただきたいとの意見がありました。
- ・法律相談において、行政にも関わる相談があった場合に情報の共有がされているか質問があり、相談内容は基本的に秘密の取扱いとなるため共有はしていないとの説明がありました。

〔個別目標②〕身分等が正確に記録・管理され、市民は窓口サービスを迅速に受けている

- ・住民基本台帳ネットワークと今後導入される番号制度（マイナンバー制度）との関連について質問があり、将来的には番号制度（マイナンバー制度）に移行していくことが想定され、住民基本台帳カードの番号に1桁追加した番号を新たに振る作業が必要となるが、現段階では詳しい情報は不明であるとの説明がありました。

〔個別目標③〕市民の足が確保できている

- ・公共交通に関する市民満足度調査の結果は26.9%と低いが、市の税収が今後右肩下がりとなっていくことが見込まれる中、いこまいCAR（予約便）の運行経費が今後さらに増加する可能性もあり、市としてどんな将来展開を考えているのかとの質問がありました。これに対し、市内部で交通体系等検討委員会を立ち上げ、検討をしている中で、市民へのアンケートを実施した結果、いこまいCAR（予約便）を知らない人が多いことが分かったため、予約便のPRを強化するとともに、迎車料金をいただくなどの利用者負担も検討しているとの説明がありました。また、小牧市、岩倉市のデマンド交通システムについても視察を行う予定であるとの説明がありました。
- ・いこまいCAR（予約便）の市負担金について、頭打ちを設けるべきとの意見に対し、市内の移動に限るため、利用料金は1便当たり最大でも3,000円以内であるが、今年度も3,900万円の予算から4,200万円程度に増額補正する必要も想定されるので、何らかの制限を設けることも検討課題であるとの説明がありました。

〔柱4〕生活産業の活性化・雇用就労と商工農業の振興

- ・資料5・6に基づき、委員（産業振興課長）より説明がありました。

〔まちづくり評価関係〕

〔個別目標①〕魅力ある商工業の成長により、活気のある地域社会になっている

〔個別目標③〕地域に雇用の場が確保され、いきいきと働いている

- ・全体的に市民満足度調査の結果は良いが、一般の市民感覚からすると抵抗があるのではないかとの意見がありました。
- ・市の法人市民税が少ない中で、トップセールスによる企業誘致等により税収を上げるような考えはないか。企業誘致できる場所は少ないが、中には農地の後継者がなく土地を売りたい人もいないのではないか。具体的に今すぐ何かをやることは難しいかもしれないが、まちづくり評価シートに「企業誘致」の文言を載せることはできないかとの意見がありました。
- ・これに対し、和田工業団地以来、企業誘致は進んでおらず、都市計画マスタープランの中では曾本町の五条川周辺が工業地域の候補地としてあがっているが、案の段階であり全く進んではいない。また、企業側からの相談もなく、現状では難しいとの説明がありました。
- ・市の財政が厳しい中、経費削減だけでなく、増収につながる成長戦略が必要であり、30年先を見据えて手を打たなければならないとの意見がありました。
- ・働く場所が増えて、若い人が住めるような町にしてほしいとの意見がありました。
- ・市民満足度調査の自由記載の意見欄には、「商店街を活性化してほしい」「近所にスーパーやコンビニがなく買い物が不便」「市内での雇用を増加してほしい」など市民の生の声がかかれていますが、こうした意見が市行政に反映されていないのではないかとの意見がありました。これに対し、産業に関する意見については、現実には商店街はなくなっており、融資もするが継続してもらえないなど、商店街の魅力が薄れているのは事実であり、すぐにやれることは実施しているものの、大きな目で見ないといけないことについては難しく、なかなか進んでいないとの説明がありました。

〔個別目標②〕コミュニティビジネスが活発に起業され、地域のニーズに合ったサービスが地域で供給されている

- ・指標名「コミュニティビジネスを展開している事業所数」について H24 実績値はハイフン（ゼロ）となっているが、名古屋では企業と NPO で連携して事業を立ち上げたためのフォーラムが開催され、事業としては成立しなかったものの、地域で販売商品を作って地元の饅頭屋などの協力により販売できるようになった例もあり、企業と市民団体が一緒に活動できるような雰囲気をつくって江南市の活性化につなげてほしいとの意見がありました。

〔個別目標④〕農業用施設が常時利用でき、農業従事者が安心して農業に従事している

- ・耕作放棄地を利用して、各校区で 2、3 箇所、100 坪程度の花の公園を作る計画があったが、立ち消えになったのかとの質問があり、これに対し、過去には国からの補助があったが、今はなくなったため実施していないとの説明がありました。

〔個別目標⑤〕市民は地域の観光資源に親しみ、多くの観光客が訪れて、地域が活性化している

- ・指標名「観光客数」に関する主な事務事業として、藤まつり開催事業や菊まつり開催事業があがっているが、市のイベントにも集客の多いイベントもあれば、単独のイベントでは集客力がないものもあり、税金の有効活用の観点からも無用なイベントはやめて、新しいものにして活性化させることが必要との意見がありました。
- ・これに対し、藤まつりについては、来年度に向けて、ライトアップした藤とともに夜のイベントの開催も検討しており、来場者を分散させて交通渋滞の問題も解消するなど、毎年内容を変えているとの説明がありました。また、市には農業まつり、環境フェスタなどいろいろな祭りがあり、今後は一つのイベントとして開催する方法もあるとの説明がありました。
- ・市民まつりにあれだけ多くの人が集まるのは、楽しく美味しいものが食べられるイベントだからではないか。市民花火大会についても、大勢の人が他の地域からも来ており、大成功であるとの意見がありました。
- ・前のイベントはどうだったということではなく、イベントを楽しく、市民を巻き込んで、お金をかけずに知恵を絞って開催することが重要であるとの意見がありました。
- ・イベントボランティアについて、市のイベント以外にも協力していただけるとありがたいとの意見がありました。